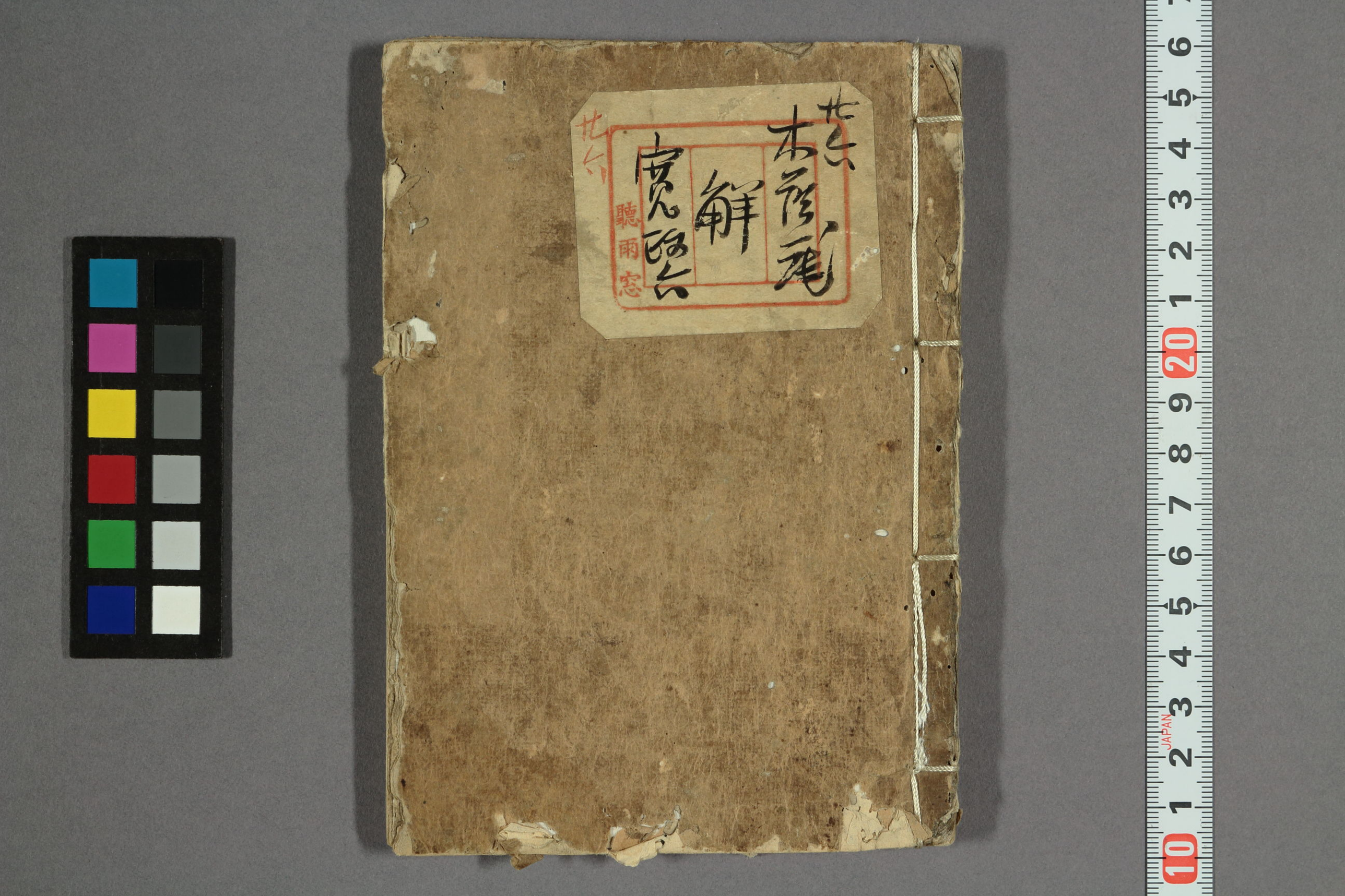
北六
北六
本草綱目
寛政六
聽雨窓

都藹藹江戸廣小路の賣買おびただしく繁昌なる頌のかずかず

次韻二百頌みな一巻に収まれるもかずかずなり

よりむかしのかたより入て萬葉説諧ノ之説

行んとす此二ツ式すべて西鶴連句

起る實に冬のはじめ寒みとなりぬ

数十巻の流り見なるべし世ノ中も

稱ノ分るものなり

ひろ家雪ちらす鶴をいかゆめをかく入

江川知辰集なるの作ぬき家ノ物ぬか

しく甚二のむきなるもいかんとも

以言葉ゆすりかけらるゝ意味甚深しく
解しうる所多し
是ことの外ものくるふ小技東坊麦林玉水真
かの名家也仲書希因集暁此事伝をも
仲意一事すれいまを
注解一日一日しく此毎
手紙おくられきを包をくまきをかち
物語られくこのあるを新行ゆゆしと思
てこゝみみしこき実はさらに出く
寛政六重仲春　東之伝尾

朱書ハ
素綾作書部
小樽市立

厚紙五枚仕

冬の日

なをも世間の西行はなほ孤独にして
なりしかとも
あるまゝ世人の
たゝれるを
なをもとひ出てよ行る

芭蕉

此白井はいとはしき
御供をもとゝ八貞享元年初冬
序のこゝろ
まゝ
紙なをの

むつ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

酒屋の場をもとゝ中場の酒匂ひて
新銀すきの乃ほそ
村とゝ文のそのまゝふゆれるまゝ
ゆりゝとあるたゝ生涯をとゝ

日乃ちゝ梁ゝ子舟ゝ茶代刈　正平

茶代刈ゝ人ゝ八波して新鮮ふ消ゝるゝ
波あり左ゝ行ゝ左ゝかく実ゝ入り八宮平
茶ゝと刈ゝてゝふゝの乃ゝと怪る百姓のゝ屋
まゝゝふ波消ゝるゝ乃ゝ鮮ゝるゝを稲ゝを茶ゝ
ゝんや入茶代刈ゝゝゝ入ゝゝ秋ゝ稲通
青ゝゝゝ入ゝゝ刈ゝ乃ゝ左ゝ左ゝ

交夕ゝゝ秋ゝ毎ゝ中ゝゝ芭
ゝせんゝ西ゝ刈ゝゝゝ左ゝゝ

紙ゝ乃ゝ響ゝ宿ゝ乃ゝゝ　野水

稲刈ゝゝゝ響紙表乃下塩ゝ其
日ゝゝゝの乃ゝ左ゝ家ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝて消ゝ

裂ゝゝゝを同紙ゝゝ　芭蕉

見ゝゝ乃ゝ左ゝの人ゝ紙ゝ乃ゝ平ゝ代ゝ乃ゝ左
て乃ゝゝ裂ゝを
ゝ在五中将二条の后ゝゝ乃ゝ
ゝゝゝゝ時芸ゝ

業平新古社繁城切くろう業平繁とちや
まとこもり居ろうらぬよことよ色ヶ牡
うんと吉書の方はかいろうるとこてけるる無名
物ちとえ出白城法れの居ほの人の繁とや
を還俗のまとも

いろうまれ雑雨しと乳城ちるて　重五

おう居の還俗とうとうるる常もるぬ乳
ハ出ふも出ちれぬまるる還俗なと蕉風
ふ行るまとうとうハ行ふるるなん前の
ふふ流俗城いろうるとれりふるよう乳
のまる城ろうもとるめて　雅やしたうハ

清えぬ辛崎笠ーすとと注　荷兮

乳城ちるる物ちるとうるる幼とる城うし
ふひ一出のいろう母のるる乳なるるるうる
乳墓ちるて行ちるるふう

岡雨乃ろうのお宮ちく出城書て　芭蕉

眼を法はいろ出やろ乳墓ちるする時ふ城
ちちく墓雨の色乳出法やろ乳衆人物遠く出
城焚も枝枝乃囲ちるる宮く烟と新のうるる
なるるハ貧ふなえ一虚家　杜国

[illegible]

田中なる小さんの柳ちる　芋弓

[illegible]田中は柳ちるころ[illegible]

う柳行李の浮世[illegible]

寄手に糸引くちんちろ　野水

柳ちる[illegible]

[illegible]

たそがれ[illegible]

糸引なるうき世の[illegible]　杜國

[illegible]

蟬なきつくして[illegible]　重五

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二乃[illegible]

野水

世うたの人はたゞ[illegible]
多のうへ[illegible]今井山[illegible]
[illegible]西行[illegible]
[illegible]

蝶ちゝ蕣ちゝうう鼻かむ　芭蕉

[illegible]
[illegible]
[illegible]

十七

素物りし簾　重五

素物のすゝはたゝ[illegible]
のゝゝゝ物のひかゝ[illegible]
ゝうへはるきゝ[illegible]
内ゝなゝゝ人ゝ[illegible]
ゝゝて無[illegible]

今を限の[illegible]　荷兮

[illegible]
[illegible]
[illegible]

置人乃[illegible]　芭蕉

[illegible]

[illegible]

余情[illegible]

松の[illegible]

[illegible]

[illegible]

宗鑑乃清水を[illegible]

[illegible]

と對[illegible]

二三丁西へ行く道より[illegible]

[illegible]

[illegible]

獨去る社數に去て其場を
去る〳〵を碎〳〵ハ人の骨う何　杜國
骨のうを赤色と化粧とん〳〵苔のまを
對〳〵去る〳〵去る〳〵ハ色なれ付くるくなり
烏賊を埋む所國　乃ゑうかく　重五
骨うなるうを紫ケうを人の骨うを
〳〵す烏賊の甲なう色トハ周易に男を
非代又麻の骨ケ用ひ〳〵骨を湖のなを
烏賊の骨をやとを孔をうなるうを

〳〵非乃〳〵非乃〳〵徒もうを郭を　野水
烏賊を実ゑ乃〳〵〳〵〳〵ハ〳〵を
徒なう〳〵を是ゑうを〳〵〳〵を〳〵
宮社ゑを〳〵〳〵ハ〳〵て貞
女ゑ宮ハかの宮常ケを〳〵を〳〵を
非水一斗一漏を〳〵ゑ　芭蕉
そう徒の〳〵ケう孔ハ漏切も漏う〳〵ゑ〳〵
日　東乃宮百う坊〳〵　月代〳〵〳〵　重五
非水一斗を〳〵う宮ゑを踏ゑ〳〵

石川丈山詩日東の事白を称をしよう志已
丈山ようをうくうくに酒をけく詩を解作詩日本
の事白なりしたりるつかること

中子本撞鐘ちゝ琵琶うゝ　荷兮

開元遺事曰汝陽王進嘗載呼硝帽打曲上自摘紅
槿簪置帽上遊滑久而方安曲終花不墮嘆曰花奴

日東の事白とくにしたりかるは張の侍を附うう

牛は仏と帰うちうるの夕ぐうう　芭蕉

琵琶は奴人の家に牛は仏弟子白仏なり
仲中条と今若の子うてはは弟子に教を

紙の子うてはは紙弟子はうん牛は仏弟子白仏なり
家のいのちはとうてふもとかとれと今とく

十ノウ

蕪子　鉢うちうと紙いてよ　杜国

帝白ハタアはは牛は仏弟子白仏なり
鉢をとうてはは中つくまは黄ひうく市人もとと安
の中は白は紙弟子て附うう

我いのちとはうちうは星見しへく　荷兮

とはうちうのうとはけう紙なは人の弟子
子は紙弟子とは仏く神前と鉢を持くとうり
満をは之後の霊夢は明方は星化はして拾白

[illegible]

鏞とつくる奚をもて室の八宮に孫娘をつなぎ
白いくを焼白くかくしたるものの
にもにやきくいたるもの
を鏞とつくるをもてもろもろやく
えりたらこのくるしつる焼うん 情の道

[illegible]味乃眉かくもよ作　野水

漢張敞眉ぬ画くやうく故事なり

綾ぬとくに居湯く志賀に義深く　杜國

眉かくとつくるより居湯とかくるうん

白髪を志賀に公ぬ世に居ぬ居湯
[illegible]居湯の清水金精なり

鄙

古き蔡のうけつくなり　重五

湯殿つくに鄙下にのうけもくにたる
京毛をうくく新ふかく芋をたくなり

其二

[illegible]牡丹とも牡丹とる花　杜子美の老
大非傷未拂衣ヲとつる詩の意味と合るなり也

初雪に[illegible]　野水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

澤菴和尚の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鶏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

桃園考樂園物園考ばかりの此句は桃園の姿なるん

ゆ　ちるゆふ波ものの田螺　ちるる柱く　杜國

芦の名所の泉波ものの田螺城とる移と

化なるべく泉ものハ井ゐの堤を移べ行のそのふ

ちるの雲城ものとて今もそのうるの角なり

奥のまはりをゆ城ものなるべく　野水

四ものの月ものの月ものの城帰と思ふものの人情

ものの行ものとものの思ものなくとなり

春もものものの城ものの従者なる男　房分

奥のの月城なるものの城ものの陸奥産の紙城と

又出ものの田舎客乃ものの系なるものの系なる

ものの城合ものの田ものの系なるものの従者なる野の中に

そのものの荻乃ハ二月の行者乃ものの城ものの

ものなるものの城ものの紙ものの琴紙歌く

ものの余情ものなる紙庵詩乃絵長子行の

白もものの考ものの

縁

ものの根　秋　芭蕉

従貴同士ものの幼なものの名つけ中なり

ものの女のものの人ものの或ハ新貧に通ものの

ものの縁好ものなるものの情ものの

はせを庵に疫病ありて人かなしみ　野水

縁さらばたがひに蚊屋の外ながら　野水
名乗りあへぬ人の面影　芭蕉
病を打恨みたる顔つきして　重五
悔ゆく余情なりけり

望月　日々歌仙　百韻おくりける　重五

はせを庵に疫病の首尾　芭蕉
れば歌書を捨て各々是を乞ひ
ちらして亡君の霊へ向の供お擂り
望月歌仙の由縁送らんとなり

小三郎　芭蕉

歌仙百韻送りける　芭蕉
の武士小三郎大将の傍ちかく
武者大盃給りて着て風流姿情ありけ

月見遊　杜国

名残の牡丹見ぬ人　杜国
を待て今宵ながらの酒宴此
月見遊人月迄のとまり給ふ

縄細乃ものとて破屋にて　重五

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]と毎〳〵そう　芭蕉

[illegible]

篠ゆへ〳〵枯ハ枯乃葉中さま〳〵　野水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

奉加名詩堂に[illegible]おもひ　重五

老人乃情[illegible]門跡の奉加乃[illegible]句学話
頭[illegible]考を今の白髪[illegible]

[illegible]

[illegible]加金砂の大勢[illegible]
傘[illegible]教[illegible]お傘[illegible]

蓮池手鑑[illegible]　杜一四

傘[illegible]蓮の[illegible]池の[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]　野水

池[illegible]
[illegible]

月子[illegible]　荷兮

[illegible]

新潟に赤子を殺して
[illegible]
[illegible]
母[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]禅師の[illegible]大悟の[illegible]
[illegible]蝉の[illegible]
[illegible]なり

落　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蕎麦の茶碗の新米の炊て　野れ

[illegible]人の[illegible]なる蕎麦[illegible]

小[illegible]の井の水　芭蕉

[illegible]

馬糞かく[illegible]　[illegible]

[illegible]

茶碗の湯[illegible]の[illegible]　正平

[illegible]

[illegible]の[illegible]　寅五

茶の湯師[illegible]の[illegible]娘[illegible]

[illegible]

[illegible]　杜國

二人の男に思ひつき女はいつれまさるらんとなやめるをとこ
上代は絵本の数と思ひ女の門
に燈籠掛しとぞ今林良材とぞ云る大和方
かつらとあれば貸もらん

寒さ哀れ角力とり城をとれば北す　芭蕉

惜しみつるとくとくの紙衾をあるべくこそ
載せる白髪の人
この秋とこそ哀れかなるを哀のこゝろ
哀のこゝろとなるなる原れ寒とこゝをぬやつれの情
もつらしとこゝろ
坂捨遺　秋風と行れてこそ見
とくらの人なかるべしめん

寒麦こそ人まち　一遠　示れ坊　野水

哀の咲所をもつ哀れ坊の屋敷すゝ乃
彩こゝをまとを遠示焼の示徒笑こゝもこゝる見

新月後雙こゝろ　杜國

彩こゝをハすこゝ示弦森の答題こゝなん

紅粉花買ふ　ほくこゝ見ゆ　荷兮

哀花の咲こゝ時をもつこゝ帰こゝ安こゝ哀
刈入田地の哀中なら農家ハ夏夜こゝ

[illegible]

人もとゝまらぬ海の上

悪ふるゝ紙業として雖孤独なれども　野れ

学紙屋くれなゐ粉花買人に学紙悪法人

のこもり居くれなゐ離れて遠ひけるうへ

命婦　乃君ゆゑ菜なんとゝもと　重五

法人のゝつゝを好むゝ中縁の命婦ゆゑ時雨の

ものなとゝ法ゝ法ゝ

[illegible]

法ゝ紙まて法法のゝ[illegible]　芳兮

宋の出ゝ物紙法法の[illegible]なゝ[illegible]

ゝ人ゝ[illegible]法法地[illegible]雷[illegible]

佛[illegible]　利　芭蕉

讃州志度の浦長田[illegible]平惠空上人の勧て

一心念仏の行者ゝ[illegible]或時志度[illegible]海法法

法ゝ[illegible]乃彼ゝ惠[illegible]の[illegible]孫泥

佛を[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

縣[illegible]　次郎と仰れく　重五

奥の松島の絵図に名を設くるに人手
なかりせば縁なる所に名を設くるに人を
待たるなるべし

又

飛まみを乃留い又　杜國

なつかしき百姓のうへを思ひ持て田
畑の中に立る子のこゑ芭蕉

うれしさを嘶る雲雀ちりと　芭蕉

又飛芝のはつる所畑をあるけば雲雀
の時を長なるべし

志賀に社るの行ふ　野水

こゑ花のうちあるやうに思ひのんとこゑ
歩りなるも眠さ附るるべし

宗碑や夫刈の移りもれる　杜國

ふるさとの夫刈の移紙にうるもうくく
家も行なるなるべ移とのもふこと紙雑屋乃
なるに和もやもとふさもむ平白は武白
白こそ短白こそ一度一白いつとこそなる
長白は紫白は黄白は赤と差別なるこを
うるこそなるみさく行ぬるべ消なり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

襟をうるほす　芭蕉

その置塵紙道とてとかくに其宗家ハ不
好色国遊里乃繁華に恍くるる尾の袖紙
襟をうるほすに不仏号ほとけをうるを
化人と称し袖紙　捺れ飲はをむ　重五

言葉を袖を襟をうるほすとて塵乃言葉
なれ使ふも号人と称し死と死るなと云
の情状を出しなるなり

某嚢の花とくを名をとはす　杜国

[illegible]
[illegible]
[illegible]

西ゑ[illegible]三日月[illegible]東[illegible]吹[illegible]を[illegible]湖
上の浪舟[illegible]みて琴[illegible]

言[illegible]ゆ[illegible]て籠を放[illegible]る　社圃

無[illegible]て[illegible]籠[illegible]放[illegible]
放[illegible]

夢[illegible]仏[illegible]　荷兮

遠の[illegible]佛れ[illegible]自[illegible]
く[illegible]放[illegible]

新[illegible]燈[illegible]記[illegible]く　野水

[illegible]仏の夢[illegible]
[illegible]新[illegible]
[illegible]

[illegible]　重五

[illegible]
[illegible]

[illegible]花の[illegible]　入

[illegible]西行[illegible]小西[illegible]
[illegible]
西行の[illegible]
[illegible]

[illegible]の日[illegible]もれるすゝ　芭蕉

西上人を殺[illegible]涅槃の日[illegible]除終[illegible]
深[illegible]も人を[illegible]と[illegible]

其四

なんは津[illegible]やたく屋をすけうと
炭売乃れのう書こそ思うゝ　重五

おもい万系集人麿の[illegible]　[illegible]波人
[illegible]史[illegible]屋[illegible]れのう書
こそとゝめつゝ
童家物[illegible]なれ
[illegible]波[illegible]の白乃[illegible]

人の化粧[illegible]人麿　[illegible]　[illegible]分

[illegible]化妻に後を白[illegible]を殺し[illegible]
炭売れかゝ[illegible]麿の[illegible]て職人[illegible]合の[illegible]
[illegible]人麿の[illegible]
[illegible]
職人歌合七十一番持

左番道の月

[illegible]
月乃[illegible]

右鍛冶の月

[illegible]

[illegible]

又和連歌

[illegible]　英一蝶

[illegible]　其角

是も秋合の[illegible]

[illegible]

荊馬骨[illegible]　杜國

人のけ[illegible]

[illegible]

[illegible]

崔[illegible]

荊[illegible]骨[illegible]　野水

風吹[illegible]秋の日[illegible]　芭蕉

[illegible]崔[illegible]五柳先生なるの徒

[illegible]陶淵明或九月九日無酒菊ノ

下ニ徒然トメ有ケルニ王弘ト云人酒ヲ贈ケル

トフ朗詠ニ王弘使立晩花前落々ニ霜鶴渉

鴉皆可愛[illegible]詩[illegible]

[illegible]織[illegible]笠[illegible]市[illegible]　羽笠

市人風俗の素朴なる中と
麦畑多く麻なくんば麻の糸にて織る
業にて紡ぐ羽望なるもの数なし　行学

賀茂川や胡麻を代参やをそ

義望紙は麻を代糸の代にもとゑ望る海
うもん賀茂の赤社く胡麻を代稲に行きて代
年りく四年代は麻を神方に納く拾は麻紙
望る糸なるそ

出くるく社智

宮くるく八幡るを社所にて茂出くるく

海外うう是始の情にて糸ふ宮く知年代まる
えくくまる代もなくなるくくくくくまるう

思人こと布搗うるれけくくくくくまる　野水

なりりまる海代にまる代代出くくまる

う実ると中ま紙こ中まる　杜國

はまる紙うる孫望る砧婦代なの花かくえ入
代うる代後うる庵ゑんこ平二満えるるる

まるる代代まるくくる紙代うる紙望　羽望

人情の三保うまる紙代嫁まる代考て競うる海るん

[illegible]れうれ炬燵　[illegible]人[illegible]ん　芭蕉

[illegible]て炬燵[illegible]

[illegible]

門[illegible]　重五

[illegible]

[illegible]

血[illegible]　荷兮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元〻法ゆゑに懲りてとゝろみ　芭蕉

紙屋より揚り茶碗へてる去の元
を敲き出る所なるべし智識の佛も法
を懲いらるゝとゝ去ゝ事ゝ不ゝ可ゝ
ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ

仏ものいふ　数〻城　敦　羽笠

元の敲き出る元言禅師ゝ出ゝ
仏正通昭ゝ宗貞ゝ世好
ゝ元ゝ帝后の姿ゝ数〻
社御長社御

表敢御答ゝ芸時

乙吹の元もゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

白燕如何[illegible]

本草曰人見白燕生貴女故白燕名天女

宣旨賢く釵鑄保　重五

洞冥記曰元鼎年起昭靈閣有神女留一玉釵與帝々以賜趙婕妤至昭帝元鳳中宮人猶見此釵共謀欲碎之明旦視之匣唯見白燕直升天去故宮人作玉釵因改名玉燕釵言其吉祥

八十賀代　重母持く　野水

天子乃釵を授[illegible]初冠御即位の賀と[illegible]入諸國[illegible]長壽の人を撰[illegible]老業[illegible]人も[illegible]

中[illegible]　杜國

[illegible]老業[illegible]八十[illegible]孝行[illegible]織女の[illegible]織女は天帝の娘[illegible]行西の[illegible]織[illegible]又母も[illegible]中と避て天の川を[illegible]七月七日[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

栗ばかりにて出でて二月の時分西月候
作る余情なるべし

けるべしもしれず　毎慶乃宮　野水

[illegible]

寅社は乃豆紙紙にて記く　芭蕉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

流れてうらみぬ浮草の根　重五

みづの面を離れぬ草の花ゆゑ

[illegible]

粥すすり暁　[illegible]　野水

[illegible]

待宵のトし　[illegible]　芭蕉

陣中に粥よりも丈待宵を出さの下ろす

[illegible]

小のうかりくる蜑に屋　羽之一

[illegible]

[illegible]　杜國

[illegible]

甚五

面白の眺望

[illegible]　荷兮

前[illegible]なく咲田舎の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]　芭蕉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

血祭の酒宴と敷白城主大将佐野の童
仲の宗活と寸る白髭翁の系統の
紙の一枚連歌いと仮子　芭蕉

雪の上の音と人の笠の筋の浮連歌席上に活る長

俳晴く富士　こと　春　荷兮

寄て活上活活尚に活る富士と活る乃活連歌

寄て椿の系に活る　音　杜國

寄に活の枝の系に活る明るの

系に活と活る　一つ　重五

系に活と活活活

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

萱家にて[illegible]

切株にて[illegible]

[illegible]市中[illegible]

宋襄尼の小坊にて　荷兮

女のすれ坊をなるまのさみしい髪をとる

けしあるとうえ小坊をハ見まなうらうえ[illegible]

[illegible]やれあるれ[illegible]

[illegible]

[illegible]

狐ちゝ亦代行屈と云へる杖の意屈事法士
法持杖副ゝ串拔或ゝ小縄ゝ行ゝ干塔ゝ
ゝ亦根ゝ行ゝ干塔ゝ

豆腐ゝ

ゝ母ゝ喪ゝ入　野水

行屈の亦代喪ゝ有ゝ多ゝ喪ゝ亦古代ハ
強ゝ行ゝ行ゝ行屈ゝ遣ゝ亦ゝ亦ゝ亦ゝ
ゝ上代の遣風ゝ亦何ゝ貧亦ゝ亦ゝ有
強代ゝ喪中ゝ竜屈ゝ喪中乃ゝ物
豆腐ゝ行ゝ豆ゝ

え故の亦ゝ代ゝ行ゝ　芭蕉

母の喪ゝ入ゝ代ゝ故ゝ亦ゝ代ゝ故ゝ亦ゝ
故の法ゝ八ゝ母ゝ母ゝ行ゝ人ゝ代ゝ母ゝ行ゝ
ゝ延ゝ行ゝ純ゝ法ゝ法ゝ風顔
ゝ法華一乗の師ゝ行ゝ慈遠傳ゝ行

仏

見ホ幡ゝ鐘ゝ代ゝ　荷兮

え故の月ゝ亦ゝ風ゝ仏ゝ木幡
の墓ゝ手ゝ亦ゝ墓ゝ亦ゝ亦ゝ
代ゝ亦ゝ代ゝ亦ゝ亦ゝ
古ゝ

ゝ亦ゝ亦ゝ亦ゝ代ゝ亦ゝ
ゝ亦ゝ亦ゝ亦ゝ亦ゝ

[illegible]男猫[illegible]を抱くまく　杜國

[illegible]乃猫とみりんとの[illegible]婦人の抱く[illegible]

雪[illegible]の[illegible]の[illegible]　重五

猫抱くめる情[illegible]雪[illegible]足沛

所の命婦の仕丁[illegible]

水[illegible]雪掃[illegible]　野水

雪掃[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]

山[illegible]白[illegible]　羽笠

是[illegible]白[illegible]

追加

[illegible]見[illegible]　羽笠

[illegible]人の眼[illegible]

[illegible]

[illegible]　荷兮

出船牛馬の駄賃右に奥州金津なとより
塩油酒の類紙家國へ強出て行はなれ年に一度宿を
年迄の後の篠家に芝なりしもの共なりしもの
とのくまなし

未城州下篇〻製紙家業として　重五

發句に紙持て行く移りかはる世の姿
えびすかな未城州の名へ家也製紙也
外と豪なりしたくたるものなるを

檜笠手紙屋門を新作の　杜國

林城州と仲州の山陰なるもの
林明天皇つくりし時代
姫紙屋なく蔦に絡る彼紙なる

狼手紙買もし　月を海　芭蕉

扨手紙屋つくりし大塩代宮漂泊の
旅路をこそ名残なく蛤買ひ人と貧乏なる
左手標紙ましる　改阜　山野水

焼蛤乃業名と言
改阜山紙見所眼高
きたる標紙をそ右
その日の解脱

花洛書肆

村上勘兵衛
井筒屋庄兵衛
橘屋治兵衛
大和屋吉兵衛